

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教育委員会等	実施機関名・連携機関名 千葉大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻
コラボ研修プログラム	事業名：ミドルリーダー養成研修
支援事業報告書	【NITS・千葉大学教職大学院コラボ研修】ミドルリーダー養成研修（全4回） これからの学校におけるミドルリーダーの役割 ～地域のもつ課題に取り組む（地域の特色を生かす、活性化を図る取組を通して）～
	開催日時：令和7年10月4,18日,11月1,15日 14:30～17:40 開催場所：千葉大学（千葉県千葉市弥生町1-33） 参加人数と参加者の属性：（延べ133人）現職教員116人、学生他17人
目的： 地方教育行政のトップリーダーである教育長の講話から、ミドル層及び管理職に対する願いや求められる資質・能力について学ぶとともに、ディスカッションを通じて、今日の教育課題に対応するための広い見識をもち、学校及び地域の教育をけん引することができるミドルリーダー更にはトップリーダーの育成を目指す。	
内容： 前半は教育長からの講話、後半は教育長と参加者代表がパネラーとなりディスカッションを実施した。ディスカッションにおいては、パネラーのみならず、フロアの参加者からの質問や意見等を聴取して、協議を深めるよう工夫した。	
<各回の教育長等講話の主な内容とディスカッションにおけるテーマ>	
10月4日（第1回）★茂原市教育委員会教育長 富田 浩明 氏 （ディスカッションの主なテーマ） 部活動の地域展開等学校における働き方改革について <small>ほか</small>	
10月18日（第2回）★長柄町教育委員会教育長 酒井 昌史 氏 （ディスカッションの主なテーマ） 小規模校等地域の特性を生かした教育について <small>ほか</small>	
11月1日（第3回）★成田市教育委員会教育長 日暮 美智子 氏 （ディスカッションの主なテーマ） 外国人児童生徒への支援等地域の課題に応じた教育について <small>ほか</small>	
11月15日（第4回）★船橋市教育委員会教育長 松本 淳 氏 （ディスカッションの主なテーマ） いじめ問題等今日的教育課題への対応について <small>ほか</small>	
成果： アンケートから Q 内容に満足したか…とても満足 78%、満足 19%、やや不満 3%・不満 0% Q また参加したいか…とても参加したい 66%、参加したい 34%、あまり参加したくない 0%・参加したくない 0%	
<自由記述から抜粋>	
○教育長というトップに立つ方は信念があり、人とのつながりも大切にされているのだと感じ取ることができた。自分自身も、学校を良くしたい、子どもたちを健康で幸せに生きていける大人にしたいとの思いを強くもち、尽力したいと思った。	
○市や町の規模や状況は異なるが、根底にあるものは「子どもを育てる、伸ばす」ことであり、それに携わる教職員も育てるという熱い思いであると感じた。この講座を受講することで自分自身が元気になったように思う。	
○市全体の教育方針を踏まえつつ、自校の状況に応じてどのように実践を積み重ねていくかを主体的に考えることが、ミドルリーダーとして求められる役割であると改めて気付かされた。	
○教室と同様に、先生方が安心して過ごせる、かつ困ったらすぐに相談できる職員室の雰囲気づくりをしていきたいと思った。ミドルリーダーについても、若手の育成だけでなく、学校運営の中核として、先生方と協働していけるようにしたいと思った。	
○前・後半構成の授業で、前半に教育長からお話を聞き、後半にパネラーの方とともに掘り下げていくという授業スタイルに魅力を感じた。	

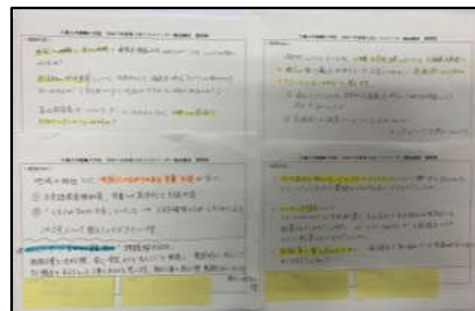
「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

「NITS からの提案（第一次）」にある、5つの「共通言語」の1つである「研修デザインの三角形」の「研修目標（参加者にどのような気づきや変化があるか）」、「研修内容（参加者は何について学ぶか）」、「研修課程・方法（参加者はどのように学ぶか）」について、次のように取り組んだ。

前半に、教育行政のトップリーダーである教育長から、ミドルリーダーに期待していることや、必要な資質能力等について講話をしていただき、後半に、参加者からのパネラーを置き、シンポジウム形式で教育長とディスカッションを行った（「研修内容」、「研修課程・方法」）。

また、研修時間の中で、個々の参加者がどのようなことを考え、どのような疑問をもっているのかを把握することは難しいところであるが、教育長の講話後に、参加者から質問用紙を回収することで、多くの質問・意見等を集約することができた。それらを教育長等へフィードバックし、ディスカッションを行うことで、より参加者に寄り添ったものとなり、参加者は、自らを振り返るとともに、今後の自らの在り方や役割等について深く考えることができた（「研修目標」）。

＜参加者からの質問用紙＞



さらには、テーマ及びサブテーマ、目的、内容等を事前に参加者に提示することで、参加者は、事前に準備や心構え、ねらいをもつことができ、当日の研修をより深いものにすることができた（「研修目標」、「研修内容」）。

アイデアや工夫したこと：

○テーマにかかる講話から始める



○質問や自らの意見を用紙に記入させ回収し、ディスカッションに役立てる（再掲）



○教育長の依頼にあたっては、地域の特性や市町村の規模、取組等を考慮した